

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年12月8日(2005.12.8)

【公開番号】特開2005-298574(P2005-298574A)

【公開日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2005-042

【出願番号】特願2004-113460(P2004-113460)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 B 37/16

【F I】

C 0 8 B 37/16

【手続補正書】

【提出日】平成17年9月13日(2005.9.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

実施例5：キャピラリーGC分析の例

実施例4および比較例1で調製したキャピラリーカラムを用い、下記の測定条件で下記の測定試料の分離を行った。また、実施例4のキャピラリーカラムについては、下記のガスクロマトグラフ測定条件のカラム温度を一定にして測定し、各化合物の保持係数およびピークの半値幅より分離係数( )と分解能( R s )を求めた。その結果を表1～表3に示す。さらに、各試料を各キャピラリーカラムで分析したガスクロマトグラムを図1～図12に示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0046】

表1～表3の測定結果から、実施例4のキャピラリーカラムは、広範な化合物に対して良く分離されていることがわかる。また、図1～図12に示したように、実施例4のキャピラリーカラムは比較例1のキャピラリーカラムに比べて、鏡像異性体の分離性能に優れていることがわかる。